



CONTENTS

- 2005 年度「学生による授業アンケート」結果報告
- 学生による授業アンケート集計結果
- 「授業アンケート」に関する Q & A
- F D 研修会
- 駒澤大学 F D 推進委員会の今後の活動予定

2005 年度

「学生による授業アンケート」結果報告

昨年度より始められました学生による授業アンケートが、本年も下記の通りに実施されました。実施は昨年同様に 4 カテゴリーでしたが、本年度は F D 推進委員会に寄せられた意見を基に、小委員会でワーキンググループを作り、授業アンケート用紙に新たな修正を施した上で実施しました。

昨年度は専任教員のみを対象として行いましたが、本年度は非常勤講師の先生方にも 1 科目をお願いしました。専任教員につきましては、昨年度は先生方にそれぞれ対象科目を選んでいただきましたが、本年度は種々の意見があり、受講生の多い順に 2 科目を指定して行ないました。

本年度実施後も種々の意見が寄せられていますが、学生へのフィードバックと実施期間との問題で、祝日や休講等の関連から十分な授業が行われない時期の授業アンケート実施など、今後の課題となる事項も含まれ、更なる改善が必要と思われれます。

1 . 実施期間

前期（前期終了科目対象）：2005.7.1～7.7

後期（後期・通年科目対象）：2005.10.17～10.22

上記期間の該当科目の授業時間中に実施した。

2 . アンケート用紙の種類

講義科目 実験・実習科目 語学科目 保健体育実技科目

3 . 対象科目数および対象学生数

専任教員 2 科目、非常勤教員 1 科目を対象とした。

前期 117 科目 9,501 人（延べ人数）

後期 1,023 科目 112,884 人（延べ人数）

4 . 実施科目数および回答数

前期 115 科目（98.3%） 6,851 人（72.1%）

後期 1,017 科目（99.4%） 49,481 人（43.8%）

学生による授業アンケート集計結果

1. 個別項目についての学科・専攻別平均値

表1-1～表4-2は、5段階で評価された各項目について、項目別平均値を示したものである。

なお、有効回答のあった学部・学科のみ掲載した。

数値の見方：Q4、Q7（表4のみQ4、Q5）を除いて5が高得点、1が低得点である。

表1-1 講義科目

学科 専攻	仏 教 学 部 禅	仏 教 学 部 仏 教	文 学 部 国 文	文 学 部 英 米 文	文 学 部 地 域 文 化	文 学 部 地 域 環 境	文 学 部 歴 史	文 学 部 日 本 史 学	文 学 部 外 国 史 学	文 学 部 考 古 学	文 学 部 社 会 学	文 学 部 社 会 福 祉 学	文 学 部 心 理
Q2	3.3	3.4	3.4	3.3	3.5	3.4	3.5	3.2	3.3	3.2	3.1	2.9	3.3
Q3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.5	3.5
Q4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6
Q5	3.3	3.3	3.3	3.2	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.3
Q6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7	3.5	3.4	3.5	3.6	3.5	3.6
Q7	3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2
Q8	3.6	3.6	3.8	3.5	3.8	3.6	3.6	3.5	3.4	3.6	3.4	3.6	3.5
Q9	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0
Q10	3.6	3.5	3.5	3.3	3.5	3.5	3.5	3.3	3.1	3.3	3.4	3.5	3.4
Q11	4.6	4.7	4.8	4.7	4.8	4.8	4.6	4.7	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7
Q12	3.7	3.6	3.6	3.4	3.6	3.6	3.5	3.3	3.3	3.4	3.5	3.4	3.5
Q13	3.3	3.3	3.3	3.1	3.3	3.3	3.2	3.0	3.0	3.2	3.2	3.1	3.2
Q14	4.7	4.8	4.9	4.8	4.7	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7
Q15	3.5	3.5	3.4	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.2	3.4	3.4	3.5	3.4
Q16	3.5	3.5	3.6	3.4	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	3.4	3.5	3.5	3.5
Q18	3.8	3.7	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8
Q19	3.8	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6	3.7	3.7	3.8	3.8
Q20	3.6	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3	3.4	3.5	3.5	3.4
有効回答数	1,007	1,624	2,266	2,025	1,105	909	1,117	905	656	426	990	1,899	1,597

Q2. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。

Q3. 授業に熱心に取り組みましたか。

Q4. 授業の難易度はどうでしたか。

(非常に難しい やや難しい ふつう やややさしい 非常にやさしい)

Q5. 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。

Q6. 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。

Q7. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。

(早すぎる やや早い どちらとも言えない やや遅い 遅すぎる)

- Q8. 教材・資料等は効果的に使われていましたか。
- Q9. 授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q10. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q11. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q12. 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q13. 板書やスライド等の資料提示は見やすかったですか。
- Q14. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q15. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q16. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q18. 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q19. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q20. この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

表1-2 講義科目

学科専攻	経済学部(経済A)	経済学部(経済B)	経済学部(商)	法学部(法律A)	法学部(法律B)	法学部(政治)	経営学部(経営A)	経営学部(経営B)	医療健康科学部)	短期大学(国文)	短期大学(英文)	短期大学(放射線)	短期大学(仏教)
Q2	3.4	3.4	3.4	3.2	3.3	3.4	3.3	3.4	2.9	3.6	3.0	2.7	3.3
Q3	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.8
Q4	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.7	3.6	3.7	3.3	3.6	3.5	3.6
Q5	3.2	3.4	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2	3.4	3.2	3.2	3.5
Q6	3.5	3.7	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.7	3.6	3.6	3.8
Q7	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.4	3.2	3.3	3.3	3.1
Q8	3.4	3.5	3.4	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.6	3.6	3.9	3.9
Q9	3.8	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	4.2
Q10	3.3	3.6	3.4	3.3	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.5	3.4	3.6	3.7
Q11	4.7	4.6	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.6	4.6	4.8	4.7
Q12	3.4	3.6	3.4	3.3	3.5	3.3	3.4	3.6	3.5	3.6	3.5	3.7	4.0
Q13	3.1	3.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.3	3.3	3.5	3.3	3.3	3.7	3.6
Q14	4.9	4.9	4.9	4.6	4.8	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9
Q15	3.3	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.5
Q16	3.4	3.6	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.7	3.5	3.7	3.8
Q18	3.8	3.9	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.6	4.1
Q19	3.6	3.8	3.6	3.7	3.8	3.7	3.6	3.8	3.8	3.9	3.7	3.9	3.8
Q20	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	3.6	3.3	3.5	3.6	3.6
有効回答数	5,194	1,729	3,328	5,122	1,007	2,948	4,908	1,207	2,026	1,169	663	72	78

表2 実験・実習科目

学科専攻	仏教学部(禅)	仏教学部(仏教)	文学部(国文)	文学部(歴史)	文学部(考古学)	文学部(社会学)	文学部(社会福祉学)	文学部(心理)
Q2	3.3	3.2	3.7	4.3	3.7	2.5	3.0	3.3
Q3	3.9	3.5	3.9	4.4	4.3	4.0	4.1	4.0
Q4	3.1	3.5	3.0	3.0	3.8	4.2	3.0	3.7
Q5	4.0	3.3	3.5	4.1	3.2	3.2	3.5	3.4
Q6	4.5	3.9	3.8	4.1	3.8	3.6	3.7	3.9
Q7	2.9	3.0	3.1	3.0	3.1	4.1	3.0	3.5
Q8	3.8	3.4	4.0	4.6	4.2	3.9	4.1	4.1
Q9	4.3	4.1	3.9	4.6	3.8	4.3	4.2	3.9
Q10	3.5	3.5	3.9	4.4	3.7	3.5	4.1	3.5
Q11	5.0	4.3	4.7	5.0	4.6	5.0	4.9	4.7
Q12	4.5	3.8	3.5	4.6	3.7	3.9	4.0	3.9
Q13	3.5	3.3	3.5	4.3	3.9	3.6	4.0	3.5
Q14	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Q15	2.9	3.1	4.0	4.7	4.1	3.5	4.1	3.6
Q16	3.3	3.3	4.0	4.3	4.3	3.8	4.2	3.8
Q18	1.3	3.1	3.9	3.4	4.3	3.2	4.0	3.7
Q19	2.3	4.1	4.3	3.8	4.1	4.0	4.3	4.2
Q20	4.1	3.8	4.5	4.7	3.9	4.2	4.4	4.2
有効回答数	15	102	26	7	10	39	106	107

Q2. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。

Q3. 授業に熱心に取り組みましたか。

Q4. 授業の難易度はどうでしたか。

(非常に難しい やや難しい ふつう やややさしい 非常にやさしい)

Q5. 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。

Q6. 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。

Q7. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。

(早すぎる やや早い どちらとも言えない やや遅い 遅すぎる)

Q8. 教材・資料等の利用は実験や実習の理解に役立ちましたか。

Q9. 授業への取り組みには熱意が感じられましたか。

Q10. 教え方はわかりやすかったですか。

Q11. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。

Q12. 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。

Q13. 実験機材の使用等についての説明は、わかりやすかったですか。

- Q14. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q15. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q16. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q18. 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q19. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q20. この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

表3 - 1 語学科目

学科専攻	仏教学部(禅)	仏教学部(仏教)	文学部(国文)	文学部(英米文)	文学部(地域文化)	文学部(地域環境)	文学部(歴史)	文学部(日本史学)	文学部(外国史学)	文学部(考古学)	文学部(社会学)	文学部(社会福祉学)	文学部(心理)
Q2	3.3	3.2	3.1	3.3	2.9	2.8	3.3	2.9	2.8	2.9	2.6	2.8	3.2
Q3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.6	3.3	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.7	3.8
Q4	3.7	3.4	3.6	3.4	3.3	3.5	3.3	3.5	3.4	3.5	3.2	4.0	3.6
Q5	3.4	3.3	3.2	3.3	3.2	3.2	3.4	3.1	3.2	3.1	3.0	3.2	3.3
Q6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.4	3.6	3.4	3.3	3.5	3.5
Q7	3.4	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.1	3.5	3.4
Q8	3.3	3.2	3.2	3.4	3.6	3.5	3.2	3.1	3.5	2.8	3.4	3.7	3.4
Q9	4.0	3.9	4.0	3.8	4.1	4.0	3.9	3.8	3.9	3.7	3.6	4.1	3.9
Q10	3.5	3.6	3.4	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.1	3.5	3.5
Q11	4.5	4.7	4.9	4.5	4.8	4.6	4.6	4.7	4.4	4.6	4.8	4.8	4.6
Q12	3.5	3.6	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.2	3.5	3.6
Q13	4.9	4.9	5.0	4.9	5.0	4.9	4.9	5.0	5.0	4.8	4.9	4.9	4.9
Q14	3.3	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.2	3.3	3.2	3.0	3.4	3.5
Q15	3.5	3.5	3.6	3.5	3.7	3.5	3.4	3.4	3.5	3.4	3.1	3.5	3.6
Q17	3.9	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	3.9	4.0	3.7	3.9	3.9	4.0	4.1
Q18	4.0	3.9	4.0	4.0	3.8	4.1	4.0	3.7	3.9	3.8	3.7	4.1	4.1
Q19	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	3.1	3.4	3.6	3.4
有効回答数	109	223	208	351	113	103	89	171	130	68	258	118	118

表3 - 2 語学科目

学科専攻	①経済学部(経済A)	②経済学部(経済B)	③経済学部(商)	④法学部(法律A)	⑤法学部(法律B)	⑥法学部(政治)	⑦経営学部(経営A)	⑧経営学部(経営B)	⑨医療健康科学部)	⑩短期大学(国文)	⑪短期大学(英文)	⑫短期大学(仏教)
Q2	3.0	3.0	3.2	3.0	3.2	3.0	3.0	3.2	2.9	3.6	3.2	2.8
Q3	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	4.0	3.9	3.9	3.3
Q4	3.4	3.5	3.3	3.2	3.0	3.3	3.3	3.1	2.9	3.7	3.3	4.5
Q5	3.2	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.4	2.6
Q6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.7	3.6	3.5	3.6	3.8	3.7	3.8	3.0
Q7	3.2	3.3	3.2	3.1	3.0	3.2	3.2	3.1	3.0	3.3	3.2	3.8
Q8	3.6	3.4	3.4	3.3	3.7	3.5	3.4	3.7	4.3	4.1	3.3	2.3
Q9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.1	3.9	4.0	3.8	4.4	4.1	4.2	3.6
Q10	3.5	3.5	3.5	3.6	3.8	3.5	3.5	3.6	3.9	3.6	3.8	2.8
Q11	4.7	4.6	4.6	4.7	4.9	4.8	4.7	4.4	5.0	4.8	4.8	4.5
Q12	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	4.1	3.6	3.8	3.0
Q13	4.9	4.9	4.7	4.9	4.9	4.8	4.9	4.9	5.0	5.0	4.8	5.0
Q14	3.4	3.5	3.4	3.5	3.6	3.3	3.4	3.4	3.7	3.4	3.7	2.8
Q15	3.5	3.6	3.5	3.6	3.8	3.5	3.6	3.5	3.7	3.7	3.8	2.8
Q17	4.1	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.0	4.1	4.1	3.7	4.3	4.1
Q18	4.1	3.8	4.0	4.1	4.1	4.0	3.9	3.8	4.3	3.8	4.1	4.5
Q19	3.6	3.6	3.6	3.6	3.8	3.6	3.6	3.7	3.5	3.3	3.0	3.8
有効回答数	602	160	355	673	84	220	891	237	29	40	78	8

- Q2. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q3. 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q4. 授業の難易度はどうでしたか。
(非常に難しい やや難しい ふつう やややさしい 非常にやさしい)
- Q5. 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。
- Q6. 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q7. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
(早すぎる やや早い どちらとも言えない やや遅い 遅すぎる)
- Q8. 補助教材の視聴覚資料(カセット、ビデオ等)を効果的に取り入れていましたか。
- Q9. 授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q10. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q11. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q12. 発音・速さは聞き取りやすかったですか。

- Q13. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q14. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q15. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q17. 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q18. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q19. この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

表4-1 保健体育実技科目

学科専攻	仏教学部(禅)	仏教学部(仏教)	文学部(国文)	文学部(英米文)	文学部(地域文化)	文学部(地域環境)	文学部(歴史)	文学部(日本史学)	文学部(外国史学)	文学部(考古学)
Q2	2.8	3.3	3.2	3.0	2.9	2.9	3.2	3.5	2.9	2.4
Q3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.3	4.3	4.6	4.2	4.4	4.5
Q4	3.2	2.8	3.6	3.1	3.1	3.0	3.5	3.2	2.9	3.1
Q5	3.2	3.0	3.1	3.1	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0	2.7
Q6	3.8	4.2	3.8	3.7	3.5	3.7	3.6	3.8	3.7	3.5
Q7	4.7	4.7	4.7	4.6	4.3	4.2	4.7	4.5	4.9	4.7
Q8	4.5	4.7	4.5	4.2	3.8	3.9	4.2	3.9	4.4	4.3
Q9	4.3	4.3	4.8	4.7	4.8	4.7	4.1	4.8	5.0	5.0
Q10	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.7	5.0	5.0	4.3	5.0
Q11	4.2	4.2	4.0	4.1	4.0	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1
Q12	4.2	4.0	3.9	4.0	3.7	4.0	3.9	3.8	4.2	4.1
Q13	3.8	4.5	4.2	4.2	3.8	4.3	4.2	4.0	4.0	4.0
Q15	4.5	4.5	4.1	4.1	3.8	3.8	4.0	3.5	4.3	3.8
Q16	4.5	4.5	4.3	4.2	3.9	4.0	4.1	4.0	3.8	4.2
Q17	3.7	3.8	3.5	3.3	2.8	3.1	3.5	3.2	3.3	3.3
有効回答数	6	6	26	28	66	54	18	17	7	11

- Q2. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q3. 授業時間中は実技に集中し、熱心に取り組みましたか。
- Q4. 授業の難易度はどうでしたか。
(非常に難しい やや難しい ふつう やややさしい 非常にやさしい)
- Q5. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
(早すぎる やや早い どちらとも言えない やや遅い 遅すぎる)
- Q6. 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q7. 授業への取り組みには熱意が感じられましたか。

- Q8. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q9. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q10. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q11. 器具・用具について適切な説明がなされましたか。
- Q12. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q13. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q15. 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q16. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q17. この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

表4 - 2 保健体育実技科目

学科専攻	文学部)社会学	文学部)社会福祉学	文学部)心理	経済学部)経済A	経済学部)商	法学部)法律A	経営学部)経営A	短期大学)国文	短期大学)英文
Q2	2.7	2.8	3.2	3.0	2.8	3.2	3.1	4.0	2.8
Q3	4.1	4.1	4.3	4.4	4.0	4.4	4.1	4.0	4.3
Q4	2.9	3.3	2.9	2.7	3.0	2.9	2.9	3.0	3.1
Q5	2.9	3.0	2.8	2.7	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0
Q6	3.6	3.7	3.6	3.3	3.4	3.8	3.5	3.5	3.6
Q7	4.3	4.4	4.3	3.8	4.1	3.8	4.1	4.5	4.5
Q8	3.8	4.1	3.9	3.5	3.6	3.6	3.9	4.5	4.3
Q9	4.4	4.9	4.6	3.4	5.0	3.8	4.6	5.0	4.9
Q10	4.9	4.7	4.9	5.0	4.8	4.8	4.9	5.0	4.8
Q11	4.1	4.1	4.0	3.4	4.3	3.8	3.9	4.0	4.2
Q12	4.1	3.9	3.9	3.8	3.7	4.1	3.8	4.5	4.1
Q13	4.2	3.9	4.0	3.9	4.0	4.2	3.9	4.5	4.2
Q15	4.0	3.7	3.9	4.4	4.2	3.7	4.0	5.0	4.2
Q16	4.3	4.1	4.2	4.1	3.3	4.3	4.0	5.0	4.1
Q17	3.3	3.4	3.3	3.6	3.2	4.6	3.4	4.0	2.8
有効回答数	79	86	64	30	25	36	90	2	64

2. 出席率と満足度

図5～図9は、大学全体の講義科目について、学生の出席率と授業の満足度の関係を表したものである。

図5 授業への出席率と満足度（講義科目）

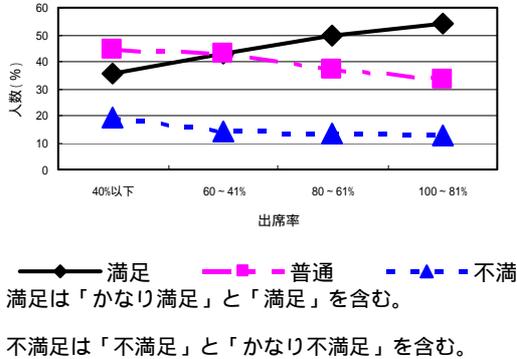


図6 出席率80%以上の学生の満足度

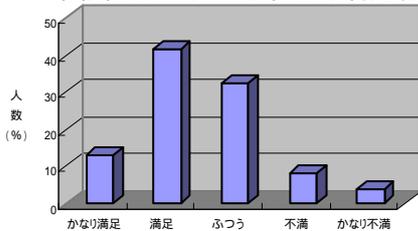


図7 出席率60～80%の学生の満足度

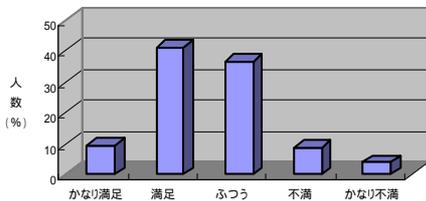


図8 出席率40～60%の学生の満足度

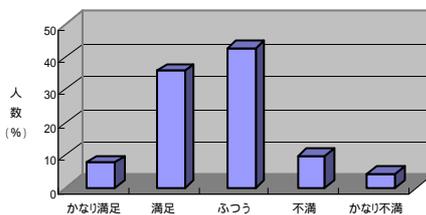
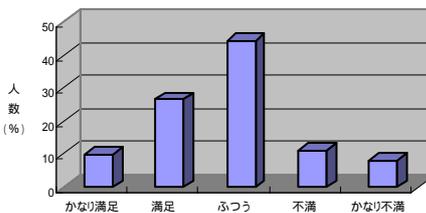


図9 出席率40%以下の学生の満足度



「授業アンケート」に関するQ&A

授業アンケートも2年目を迎え種々の議論がなされています。それだけ意識の高まりが出てきたことは嬉しい事といえるでしょう。

今回実施した授業アンケートについても何人かの教員の方から質問がありました。それらの内容には多くの教員の疑問と共通する部分が含まれています。ここではある教員からの質問をQ&Aというかたちで再構成し、FD推進委員会小委員会の見解として回答いたします。

Q1

Q2～20は5段階評価されていますが、結果用紙の「5」の欄の下に「最高」とあるのはおそらく「5点が最高点」という意味に解されます。それでよろしいのでしょうか？

Q4「授業の難易度はどうでしたか」に対して「5点、最高！」という評価は「最高に難しかった」なのか「最高に簡単だった」なのか判断としません。通常得点表記は右側のスコアが高く、左側が低いものというのが常識だと思います。

A1 5段階評価について

質問項目における5段階評価は、評価の順番を示す順序尺度ですが、便宜的に間隔尺度と見なして平均値や変化値を算出しています。しかし、質問項目が多数にわたる場合、質問項目によって何を5に相当させ、何を1に相当させるかが等質にはならないケースが出てきます。つまり、「そう思う」ときに5とするのか、「あてはまる」ときに5とするのか、「よかった」ときに5とするのか、そして、今回ご指摘のような「難しかった」ときに5とするのかなどです。

昨年度の授業アンケートの際にこういった問題が occurred したので、今年度のアンケート用紙には、各項目ごとに5は「全くそう思う」、1は「全くそう思わない」、あるいは5は「非常に難しい」、1は「非常にやさしい」のように項目ごとに個別のラベルを付けました。従って、解答する学生にとっては混乱は少なかったのではないかと考えられます。

教員への結果用紙の5の欄に「最高」とあるのは、単に5側がその項目に対する高い得点であることを示したものに過ぎません。ただ、日常表現の「最高！」は「すばらしい！」という意味で使うこともあるので、このように書き入れたの

は誤解を招くおそれがあり、適当でなかったかもしれません。これからは実際の調査用紙と見比べながら、結果を見ていただくようお願いするようにしたいと思います。

5段階評価のどちら側を高く、どちら側を低くするかは、目的や用途により決められるものでしょう。

Q2

棒グラフ・帯グラフは集計表と同じデータを加工したもので、無駄な情報です。これらを見る限り、あまり考えられた集計とは思えないという印象を持っています。

また、この欄のQ1~3は学生の取り組み方に関するもので私も教員には直接関係ありません。このような情報をわれわれはどのように解釈すればよろしいのでしょうか。

同様にQ18~20は教員にとってどうしようもないことであり、全講義平均に比べて当授業平均が著しく低かったとしても、文句は他の所に言ってくれというしかありません。

A2 表と図の重複について

確かにご指摘のように教員1人がこれを分析して参考にするという点においては冗長かもしれませんが、授業アンケートの結果を授業中に学生にフィードバックする際に、ポイントを絞って視覚的に提示できるということで、便利にお使いになっている先生方も多数いらっしゃると思います。

Q3

自由記述欄については参考になる意見も多々あったのですが、これらは学生の記述をそのまま写したものでしょうか？未加工であることは大切だと思いますが、教員に対する中傷や暴言もそのまま掲載するということでしょうか？

同僚教員からは、きわめて不誠実な、おもしろ半分の記述があったと聞きます。

さらにこの欄には(1)(2)といった項目のようなものがありますが、これらは何を指すものなのでしょう？

何しろ「評価」なのですから、こんな些細なことも気になります。

A3 授業以外の質問項目ならびに自由記述について

質問項目はアンケートの根幹をなすもので、今後も検討を重ねてより駒澤大学の実情に合ったものに改善していく必要があると思います。現在は、このアンケートが学生の生の声を聴取する貴重な機会であるとの考えから、学生の授業へ

の取り組みや、授業以外の大学全般への意見なども聞くようになっていきます。授業アンケートが定着してくるともっと効率のつかう項目でも可能かもしれません。

自由記述欄の結果報告は学生の書いたものをそのまま掲載しています。(1)(2)(3)は自由記述欄の行番号です。本学の授業アンケートはスタートしたばかりで、学生にとってもまだ十分に認識されていない状態にあります。どこの大学でも授業アンケートを開始した直後は、学生が日頃の鬱憤をばらそうと、ここぞとばかり自由記述欄に教員への中傷や大学への批判を書きつらねることが多いものなのだそうです。

確かに学生の中には、「いい加減に」「悪意を持って」回答しているものもいるかもしれません。しかし、他大学によるこれまでの先例で、多くの学生は真剣に考えて答えており、授業アンケートには相応の信頼性があることが指摘されています。よしんば、「いい加減で」「悪意に満ちた」と思われる回答があったとしても、そういう風に回答する学生が受講生の中にいるということは紛れも無い事実であり、担当教員はそういった学生をも含めて当該授業における「教育」を考えなければなりません。

Q4

最大の危惧は、今後このデータがどのように利用されるか、についてです。このデータは職務にかかわるものですから、すべて公開されてもいっこうに差し支えありません。むしろお送りいただいたデータをそのまま Web にでも掲載すれば、駒澤大学を学外の方に知って貰う上で、とくに受験生にとって有益であると考えます。そのような計画もなく、単に「やってみた」で終わるのであれば、このデータがFD推進委員会によって管理されていることに不安を感じます。そのような状態は、一部の人間が私の承諾なしに私の授業を覗き見できることを意味します。

A4 データの利用について

現在の段階では、授業アンケートのデータは、20個の質問項目と自由記述の当該授業欄に関しては、担当教員のみ個人利用に限定するというのがFD推進委員会の合意事項です。従って、FD推進委員会は業者に委託したそのデータを厳正に管理することはいたしますが、教員個人のデータを「覗き見」することはありません。ただし、大学全体に対する自由記述に関しては、別途集計し、関係事務局が自由に

閲覧し、業務の改善に活かせるようになっていきます。

ただ、「覗き見」という表現は適切ではありませんが、大学における授業科目は教員の私物ではなく、本来公共的な性質を持つものであるという認識を持つことは重要なことだと思われまふ。なぜならば授業科目は大学（学部や学科）がその教育目標に照らし合わせて、カリキュラムを編成し、設置しているものであり、教員は大学から委託されてその授業を担当する責務を負っているものだからです。一方、学部や学科には逆に、個々の授業科目が教育目標を達成するためにきちんと機能しているかを担保する責任があります。このような流れの中で、授業が公開され第三者評価を受けるといふのは時代の趨勢であろうと思われまふ。授業アンケートや公開授業はそのような第三者評価の既成の一形態ですが、どのような形で第三者評価を行うかは、今後の本学の課題となるでしょう。

授業アンケートの本学における現在のよな利用は、大学全体からみると最少利用・最少公開の範疇に入るものと思われまふ。最大公開をしているところは全教員の授業アンケートの結果をすべてWebで公開し、外部から（学外者）もそれが見られるというものです。本学がすぐにそのような形態をとることは考えられまふが、今後、データの利用の仕方についてFD推進委員会をはじめ、学部の推進部会等においても大いに議論し、より有用な利用法を探っていくことが必要だと思われまふ。

Q5

授業の公開やFDそのものに反対なのではなく何の方針も決まらないまま、データだけが蓄積され、誰かに見られてしまうことがイヤなのです。

それをもとに、授業に対して何らかの判断を下されるようなことがあるのなら今後このアンケートへの協力をお断り申し上げます。

このアンケートには少なからぬお金がかかっていることでしょうし、実施のために授業時間の3分の1近くを削っています。それだけのコストをかけていながら、送られてきた集計結果には何の分析も加えられず、よけいな情報で肥大化しています。今後のデータの利用計画がはっきりしないのであれば、私の授業の分だけで結構ですからデータの破棄を求めまふ。

A5 授業アンケートの有効性への疑問について

授業アンケートには二つの大きな機能があります。一つは学生との社交辞令を排除したコミュニケーション、二つは当該授業のさまざまな側面に対する学生の反応です。この豊かな情報を包容したデータから、どのようなメッセージを読み取り、それをその後の授業にどのように活かしていくかは、実は教員一人一人に委ねられているのです。まして、大学やFD推進委員会が押し付けるものではありません。他大学では、多くの教員が学生による授業アンケートを活用して授業に工夫を加える努力をしています。もちろん本学にもそのような教員が多数います。FD推進委員会では昨年に引き続き、本年度も研修会を計画し、他大学の事例や授業アンケートの取り扱い方などについて本学の教員が学ぶ機会を設けました。授業アンケートだけに限りませんが、こういった他大学の成功例や失敗例、また苦労話は大いに参考になるはずで、次の機会にはぜひご出席いただければと思ひます。

FD研修会

FD研修会を下記のとおり実施した。

テーマ：大学の授業について考える

さらなる授業改善のために

講師：安岡高志東海大学教授

日時：平成17年11月7日（月）16：20～17：50

場所：中央講堂

懇親会：研修会終了後（18：00～19：30）

平成17年11月7日中央講堂で、東海大学教育研究所所長安岡高志教授による講演会が開催され、講演内容は主に学生の授業評価の分析、授業の改善が中心でFD活動の目的・意義等について幅広く充実したものであった。

良い授業を行う教育力のある教員の定義について、日本人学生が1科目についてどのくらい学習しているか科目の分野別学習時間数などのデータなどを基に、次のような点を挙げられた。

基礎を十分に理解させ基礎力を身につけさせる。

知的好奇心や学ぶことの喜びを与えられる。

助産役ができる。



授業以外に学習をさせる。

また、共通の授業目標として、読み書きができ、科目を好きにさせることが重要だという説明の中で、読み書きというのは、小・中・高校生や大学生それぞれにあった読解力や表現する力が求められているという説明があり、単純に「読み書き」と理解してしまいそうな点について、説得力ある説明がなされた。学生にもこのように理解させればよいのだという教育力の基礎を教えられたようである。

学生の授業アンケートの分析は興味深かった。「教員の年齢が若い方が学生による評価が高い、特に話し方や板書、出席率等で年齢による差が大きい」ことであった。

また、授業以外で若い教員と年齢の高い教員の異なる点について、

若い先生のほうが接しやすく、優しい。

年齢の高い先生は自分の意見だけを主張して、学生の意見を聴いてくれない。

体力的に疲れているようで動作が鈍くなり、なんだかだるそうである。

年齢の高い教員は、授業の中だけであしらい、教室外であつても話しかけてくれない。

年齢の高い教員のほうが、話す面白い。

など学生の評価をいくつか挙げられたが、必ずしも若い先生がよいというわけではなく、全体として若い先生のほうが優しく、丁寧に学生の反応を見ながら教えてくれ、年齢の高い先生は授業のみ済ませば、授業外でのコミュニケーションも少なく、学生には疲れているように見えているようである。学生は、先生にせめて顔くらいは覚えてもらいたい、と先生とのコミュニケーションをもとめているようである。

これらは、安岡先生が学生が教員に対して感じていることについてアンケート調査をされた結果の傾向だそうである。

授業アンケートに対しては一部で疑問視する方もいるが、「学生の成績や学問的能力と授業評価は関係ないことが検証されており、学生による授業評価と学生の学習や到達度にはゆるい相関がある」との報告は無視できるものではないだろう。東海大学は20年も前から授業改善に取り組み、学生による授業の評価が年々上昇しているという。現在、本学で行われている授業アンケートは設問やその活用方法等について議論が高まっている。授業アンケートをきっかけとして学生との対話が増えたとの話も流れてくる。今後、本学のF

D活動の課題のひとつとして授業アンケートをどのように生かすかが問われるところだ。



講師：東海大学教育研究所長

安岡高志教授

駒澤大学FD推進委員会の今後の活動予定

駒澤大学FD推進委員会

平成18年3月開催予定

FD NEWSLETTER 第6号発行

平成18年3月31日(予定)

編集後記

早いもので平成16年4月に「駒澤大学FD推進委員会」が設置されてから、2年になろうとしています。その中でFD推進小委員会は課題ごとにワーキンググループを設置し、積極的に活動してきました。FD NEWS LETTERの発行(年間4回)や、FD研修会などの企画は担当する教職員にとって相当な負担になりますが、大学教育に関する情報が多く得られましたし、更に自分自身の講義を見直す良い機会になりました。FD推進活動は自分自身の意識の改革から始まるようです。この活動を継続して、学内に浸透させるには多くの教職員の方々にFDに関わってもらうことが最も効果があると感じました。どうか皆様研修会等には積極的にご参加下さい。そして次期FD推進委員会委員のご担当をお願い致します。(村松 誠、西尾 誠示)

FD NEWSLETTER Feb.2006 第5号

発行日：2006年2月13日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

03-3418-9867 Fax 03-3418-9037

(事務局：総合企画室)